

2020年8月2日

## 令和元（2019）年度事業報告

（ⅠからⅣまでが総括、Ⅴ以降が個々の事業の年間報告となる。）

### Ⅰ 事業総括

令和元年度事業報告で特筆すべきことは、年度末に新型コロナウイルスの爆発的な世界的感染拡大により、国内での競技大会、研修会、講習会などが、中止・延期・自粛を強いられ、終には東京2020オリンピックの延期が決まったことである。

それまでは、本年度の事業方針に則り、概ね実施することができた。具体的な事業総括を以下に記す。

#### （1）IFSC 世界選手権八王子大会 2019

8月に開催されたIFSC世界選手権八王子大会2019は、東京2020オリンピックの選考大会として、39の国と地域から606名（種目重複を含む）の選手が競い、大いに盛り上がった。自国開催となった日本代表選手は、複合で男女とも8位以内に4名入るという好結果を得、東京2020オリンピックの代表選手内定者も出た。大会は、東京2020オリンピックを想定し、充実した会場施設、運営、メディア対応等を行い、大会そのものは成功裡に終了した。

しかしながら、大会終了後、収入、経費の検証を行ったところ大幅な欠損が生じたことが判明した。助成金、競技会収入等の収入が予算を大きく下回り、経費では、床の耐震強度不足による補強工事、消防からの指導による外部電源車の長期レンタル等々で大幅に経費が高んだ。

結果的にIFSCアジア選手権2020（岩手県盛岡市）の開催中止など本協会の事業運営に多大な影響を及ぼす緊急事態となり、この対処として財政再建諮問委員会を設置し、中間検証報告書を答申した。また「予算執行管理に関する規律」も策定され、今後の改善が望まれる。（Ⅳ項で後述）

#### （2）第32回オリンピック競技大会の日本代表選手選考

東京2020オリンピックの日本代表選手の選考については、2018年10月にIOC/IFSCが承認して公表されたIF選考基準に基づいて作成した、「第32回オリンピック競技大会におけるJOC推薦選手の選考について」を2019年5月に公表した。

ところが、IFSCが2019年10月に何ら正式な説明をしないまま、従前の態度を覆し、IF基準の解釈に大きな変更を行った。この解釈変更によりJMSCA基準での代表選考が適わなくなった。IFSCと協議を重ねたが、受け容れられる十分な回答が得られないまま、フランス・トゥールーズでのオリンピック予選大会が迫ったため、やむなく本協会は、IFSCの新解釈を取り消して貰うべく、スポーツ仲裁裁判所（CAS）に提訴した。

2020年4月1日にCASの審問が行われる予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大で、5月1日以降に延期となり、未だ裁定されていない。

#### （3）スポーツクライミングジャパンツアー

SPORT CLIMBING JAPAN TOURとはボルダリング・リード・スピードの各ジャパンカップへの

出場選考を目的としたシリーズ戦であり、選手には、各種目の出場した大会成績に合わせたポイントが与えられ、総合ポイントランキング上位者（種目とカテゴリーにより異なる）に次年度の各々の種目の参加資格が与えられる。本年は全国の複数の各ジム等で開催された。1,000万円の協賛金を基に開催され、年間で190万円の利益がでた。今後の開催にあたっては各岳連（協会）の連携も必要になる。

#### **(4) 夏山リーダー制度**

本年度は、全国的に夏山リーダー講師養成講習会を開催して講師養成に努める事業計画であったが、2箇所での開催で48名の講師養成に留まった。年度後期では、新型コロナウイルス感染拡大で一部講習会が中止となった。

UIAA認定については、UIAAとの見解に相違があり、UIAA担当者を招聘しての査察は行わなかった。国際資格認定については、引き続き継続して準備を進め、早期の取得を目指す。

#### **(5) 遭難防止**

減遭難キャンペーン「ストップ・ザ1000！」（遭難者総数を1996年の1000人台に戻そうというキャンペーン）は、山岳4団体にも呼びかけ、協力を仰いだ。

totoの助成金を受け、遭難防止を呼びかける音声入りアニメ動画「そうよ そうなの 遭難よ！」を制作し、HPやYouTubeで発信拡散した。全国の岳連（協会）や要望のあった県警本部にはCDを配布した。新聞、雑誌などでも取り上げられ、調査会社のデータでは、スマホ等からのクリック率が0.1%（かなり良い数字とのこと）と報告された。

#### **(6) 委託事業「少年少女登山教室」**

加盟団体への委託事業「少年少女登山教室」は32の都道府県から申請があった。今年度は祝日「山の日」記念事業を無くしたこともあり、多少の伸びを期待していたのだが、例年より若干の増加（前年比4件増）にとどまった。

#### **(7) ガバナンス教育**

スポーツ団体（中央競技団体）及び一般スポーツ団体のガバナンスコードが通達され、本協会でもガバナンス委員会を中心に13項目のガバナンスコードの対応を検討した。また、役員向けガバナンス研修も行った。

加盟団体に対しては、法人化を薦めており、法人化サポート事業として、複数の加盟団体の法人化支援をした。その結果、2団体が2020年4月から法人化することになった。今後は、加盟団体向けの一般スポーツ団体のガバナンスコードの対応支援が必要となる。

#### **(8) 情報発信**

加盟団体に対しては必要な情報を発信してきたが、外部に対しては広くあまねくという訳にはいかず、十分に機能しなかった。HP、SNSの活用が不十分であった。

東京2020オリンピックのインバウンド対策の一環として取り組んできた英語版HPの構築は、ほぼ終了し、公表できる運びとなった。

## (9) リスク管理

本年度は、東京2020オリンピック前年イヤーとして、例年のないIFSC世界選手権やテストイベントなどで年間を通して繁忙の日々が続いた。年度後半においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、競技大会、研修会、講習会が中止・延期・自粛となり、その対応に追われた。

IFSC世界選手権は、前述したが、財政面では、大幅な赤字を出す結果となった。従前から指摘されてきた競技大会の仕様評価の甘さと予算執行管理不全の状態に対する認識と反省が不十分であったということを感じさせられることとなった。ヒヤリ・ハットを持ち出すまでもなく、組織運営も、不要な損失や混乱を被ることなく、正常稼働を続けるためにもリスクマネジメントは必要不可欠という再認識の結果になった。

## II 組織の運営について

### (1) 理事会

6月の総会で、改正された役員選考規程での最初の役員改選が行われた。理事23名、監事2名が選出された。理事数は2名削減となり、懸案の女性理事は2名選出された。これまでのブロック選出理事は無くなった。

定款に則り、23名の理事から会長1名、副会長3名、専務理事1名、常務理事3名の計8名が業務執行理事に選任された。常務理事会での審議事案を効率よく審議するためにスモール・キャビネット体制とした。

新役員体制では、理事会を毎月開催し、緊急案件では臨時理事会を開催するなど、本年度の理事会開催は、15回（従前は年4回）に及んだ。交通費としての経費は増えたが、従前に比較して審議事項に関して理事の一体感、理解は深まった。

組織管理運営規程が整備され、各専門委員会の運営・活動が効率良くなった。SC部では毎月理事会終了後に理事・専門委員会委員長・副委員長の合同会議を行い情報の共有化に努めた。登山部も理事会終了後に登山部会を開催して情報の共有を図った。

### (2) 関係諸機関・団体との協力

JSP0、JOC加盟のNFの殆どは、一つのIF加盟なのに対して本協会は、3つのIF(UIAA、IFSC、ISMF)に加盟している。東京2020オリンピックを控えてIFとの連携・連絡は、例年になく深まった。スポーツ庁のスポーツ国際展開基盤形成事業を活用してIFSCのロビー活動を積極的に行った。また、8月のIFSC世界選手権時に来日したフランスのFFMEと友好協定を締結した。

UIAA総会の役員改選では、丸副会長がBoard Memberに立候補したが、獲得には至らなかった。

ISMFの新会長Thomas Kahr氏が、2020年2月に来日し、長野県八方尾根スキー場を視察され、日本でのアジア選手権開催について情報交換を行った。

今年度、国内の上部団体からは、ガバナンスコード、東京2020オリンピック、新型コロナウイルス等に関わる通知が多くもたらされ、それらを加盟団体に周知した。

JSCの国立登山研修所とは、安全登山指導者研修会、安全登山サテライトセミナー等幾つかの共催事業を前年通り実施し、安全登山の指導・啓発に尽力した。

クライミングジム連盟とは、ITADAKI会員制度とコラボしたボルダリング検定を実施した。本年度から始まったスポーツクライミングのジャパン・ツアーでも協力を仰ぎながら展開した。

国内の山岳4団体、HAT-J、全国山の日協議会、日本山岳文化学会等とは、今年度も遭難対策、自然保護、ジュニア普及、山岳文化等で連携・協力した。

### Ⅲ 財務管理（詳細は、収支決算報告で説明）

当期経常増減額は、30,294千円の大幅赤字となり、正味財産期末残高は77,421千円（前期末残高比28%減）となった。中間決算では、さらなる大幅赤字を覚悟したが、年度末になって、新型コロナウイルスの感染拡大により、競技大会・講習会が相次いで延期・中止となりその分の支出が減少した。

選手強化及び競技大会の予算は、助成金、協賛金、参加費、競技会収入等の財源で経常収益を見込んだが予算精度が甘く、何れの財源も当初予算を大きく下回った。特にJSC助成金申請条件が従前とは変更になって申請件数に制限が加えられ、予算通りの交付が適わなかった。また、競技会収入で期待したチケット収入が予想を大きく下回ったことなどが大きく影響した。

一方、経常費用ではIFSC世界選手権を筆頭に各競技大会で軒並み予算オーバーとなり、経常費用が嵩んだ。競技大会をランク付けして、各大会の仕様を確立し、収入に見合った予算を編成しない限り、今後も同じ轍を踏むことになる。

IFSC世界選手権以降、運転資金の確保に苦勞し、2019年10月に長期借入（3年毎月均等返済）2,000万円、1月に短期借入（6ヶ月）4,000万円の融資を受けて運転資金を調達した。

国民スポーツ登山振興基金の一部取り崩し（1,000万円）の理事会承認を受けたが、本年度では実施せず、次年度の運用に備えた。

### Ⅳ 財政基盤の確立について

事業を実施するには、安定した財源の確保と、不要不急の出費削減が必要であることは論を待たない。役員、委員一人ひとりが常に意識し、事業の構築にあたっては、歳入の確保を念頭に置き、予算厳守に務めることが肝要である。

本年度は、財政基盤確立の取組として、8項目を上げて取り組んだが、努力のわりにこれと云った成果は、上げられなかった。選手登録のA登録が増えた分、登録料収入が若干増えた。創立60周年記念募金は、累計総額416口、204.8万円に留まった。（2020年7月2日現在533万円）

本年度は、財政基盤の確立どころか競技大会で大幅な赤字となり、本協会の屋台骨を揺るがす緊急事態となったため、急遽、「財政再建諮問委員会」を設置して中間検証報告書を答申した。また、「予算執行管理に関する運用規律」を整備し、この緊急事態に対応することになった。

#### 〈財政再建諮問委員会の設立〉

本協会の危機的財政状況を改善して、早期に健全財政組織へ導くことを目的とした「財政再建諮問委員会」の設立が12月の理事会に諮られ、承認された。委員会は、委員長・亀山副会長、委員8名で構成。

委員会では、IFSC世界選手権の大規模赤字について、その原因を分析し、今後の大会運営における教訓とし、競技運営の適正化、健全な大会運営ひいては協会運営を図ることを目的とした。

委員会からは、中間検証報告として2月の全国理事長会議で報告された。検証報告書では、予算（大会仕様）の精度が極めて低く、赤字額の予測等に全く対応できなかったのは、仕様の決定、発注に際し、作業日数・人員体制に無理があったからと考えられる。具体的には、大会仕様や予算の確定等の検討時間の不足、仕様変更についての具体的検討不足、見積検討用の資料不足、現場管理者と事務局との連携不足等があると考えられる。スタッフの責任と権限の曖昧さ、トップダウンの

不透明さから、一層トータル管理が出来なかったものと考えられる。公益社団法人の予算管理は、予算額を超えないのが原則。収支に対して厳格な強制力を持っているが、今回は極めて例外的に赤字を認める運用になってしまった。等々の指摘を受けた。

以上

## 令和元（2019）年度事業報告

### V. 事業内容（事業名の網掛けは JSC 助成事業）

#### 1. 安全登山普及事業

当協会における安全登山普及とは、下記に述べる普及、指導、遭対の各委員会を中心とした活動を積極的に行い、山岳における遭難・事故を未然に防ぐことにある。

警察庁生活安全局発表の2018年度山岳遭難概況によると、遭難件数 2,661件、遭難者3,129 件で、遭難者総数は、約 20 年間、右肩上がり傾向が続いている。これでは登山行為が、社会悪とみなされかねない。

・そこで当協会では、登山者が一致団結して、1996（平成 8）年の**遭難件数 1,000 件台**に戻す“ストップ・ザ1000”キャンペーンを展開して減遭難に取り組んだ。“減遭難”キャンペーンを周知するために音声入りアニメ動画を制作して全国的に拡散した。

・JMSCAでは、本年度より身近なリーダーを養成する「夏山リーダー養成講習会」を全国で展開し、遭難防止のための指導者養成に取り組んだが、全国2箇所で開催で54名の養成に留まった。

・国際・アルパインクライミング委員会では上記普及と並行して世界のトップレベルに負けないクライマー育成のため、国際交流事業を支援した。

#### (1) 青少年育成事業(普及委員会)

##### ア) 高体連登山部関連

①第 63 回全国高等学校登山大会の開催 2019年8月2日（金）～6日（火）

宮崎県高千穂町 祖母山系

参加都道府県は男女とも 46（沖縄県以外）。開催県の宮崎は 2 校出場。

選手各チーム 4 名×2（男女）×47=376 名、監督 94 名、役員：競技役員 46 名、行動隊役員 76 名、コースサポート 25 名、自衛隊支援隊 27 名、設営隊 17 名、運営役員（式典・輸送・弁当等）26 名、補助役員（高校生）86 名、合計 397 名

優勝校は、男子：長崎県立長崎北陽台高校、女子：静岡県立富士高校

台風の接近で最終日の登山行動が一部カットされ日本百名山の祖母山に登れなかった。

②第 10 回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会の開催

12月21日（土）～22日（日）埼玉県加須市市民体育館

（スポーツクライミング競技会事業の項参照。）

##### イ) ジュニア登山教室

①「少年少女登山教室」の開催（委託実施）

今年度は 32 の都道府県で開催された。実施率 68%。

②「ジュニア普及情報交換会」開催

2020年2月15日（土） 国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者；岳連 20 名、JMSCA7 名、計 27 名

③「みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山 2019」

2019年8月25日(日)～28日(水) 国立立山青少年自然の家、立山周辺  
参加者12名、スタッフ等11名 合計23名。

④「みんな集まれ！なすかし雪遊び隊2020」

2020年3月 国立那須甲子青少年自然の家  
新型コロナウイルスの感染拡大により中止。

(2) 登山に関する文化・学術の振興事業(普及、総務、国際・アルパインクライミング委員会)

ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等へ随時情報提供を行った。

イ) 登山に関する情報・資料の収集を行った。

ウ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

- ・2019年度実施各競技大会入賞者(1位～3位)表彰
- ・第58回全日本登山大会功労者特別表彰(10回以上の参加者)  
永山義春、吉井一美、齋藤次江、藤巻朝男の各氏
- ・2019年度永年参与感謝状贈呈  
今野昌雄、松本睦男、高橋守の各氏
- ・2019年度功労者特別表彰(2020年新春懇談会時)
- ・第9回日本山岳グランプリの公募と贈賞  
『岩と雪』元編集長 池田常道氏が受賞した。
- ・2019年度各種スポーツ賞表彰候補者の推薦と受賞  
第69回日本スポーツ賞：檜崎智亜  
第54回テレビ朝日ビッグスポーツ賞：野口啓代、檜崎智亜
- ・2019年度日本スポーツ協会公認スポーツ指導者表彰候補者の推薦と受賞  
瀬藤武(埼玉)、川端満(青森)、植木孝(栃木)
- ・2019年度自然公園指導員自然環境局長表彰候補者の推薦  
本年度は推薦者無し。
- ・2021年度叙勲及び褒章候補者の推薦  
本年度は推薦者無し。

エ) 2019年度海外登山隊奨励金交付登山隊の公募と選考(国際事業の項)

令和元年度前期は下記の3隊に決定した。

- ① HCC 隊 2019年10月8日(火)～2020年2月28日(金)  
隊員 増本亮、増本さやか、  
山域 ヨセミテ・エルキャピタン～パタゴニア・フィッツロイ 30万円交付
- ② チームB&S 2019年11月1日(金)～12月13日(金)  
隊員 横山勝丘、加藤直之、倉上慶太  
山域 アメリカ・ユタ州、モアブ近郊ミネラルキャニオン 20万円交付
- ③ 単独フリー登攀 2019年10月中旬～11月中旬  
隊員 倉上慶太  
山域 カリフォルニア州、ヨセミテ、エルキャピタン、ハーフトーム 10万円交付

オ) 各種登山・山岳スポーツ大会等の後援

- ① 神奈川県山岳連盟「かながわ山の日 in HADAN02019」

- ② 植村直己冒険館 植村直己顕彰事業「2019 日本冒険フォーラム」
- ③ (一社)大阪府岳連「第 13 回生駒山チャレンジ登山」
- ④ 第 27 回日本山岳耐久レース
- ⑤ 神奈川県山岳連盟「県民登山」
- ⑥ (一社) 広島県山岳・SC 連盟「山岳・スポーツクライミングセミナー」
- ⑦ NPO 法人北丹沢山岳センター「陣馬山トレイルレース」
- ⑧ 岡山県山岳・SC 連盟「岡山県玉野市深山公園ボルダリングエリア公開イベント」
- ⑨ (一社) 広島県山岳・SC 連盟「第 28 回比婆山国際スカイラン大会」
- ⑩ (一社)大阪府山岳連盟「チャレンジ登山」
- ⑪ 日本山岳写真協会展
- ⑫ (公社) 日本山岳ガイド協会「百万人の山と自然」
- ⑬ 田部井淳子基金「東北の高校生富士登山」
- ⑭ (一社) 日本山岳検定協会「第 10 回山の知識検定」

カ) 共催

HAT-J「国際青少年自然環境体験 in2020」

キ) 日本山岳文化学会等と連携しながら、山岳文化の普及・振興を図る

「山岳文化 in 福井」の開催協力 (12 月)

**(3) 安全登山の啓発事業(普及、遭対の各委員会)**

普及委員会

ア) 安全登山指導者研修会 (国立登山研修所他共催) の実施

- ① 東部地区 (北海道、岐登牛山・旭岳周辺) 9 月 14 日 (土) ~16 日 (祝月)  
参加者: 一般 30 名、実技講師 8 名、講師 5 名、主催者役員 4 名
- ② 西部地区 (大阪、神戸セミナーハウス周辺) 10 月 12 日 (土) ~14 日 (月)  
台風 19 号接近の為、中止。

イ) 安全登山事業 (国立登山研修所と共催)

- ① 高等学校等登山指導者夏山講習会  
8 月 7 日 (水) ~9 日 (金) 国立登山研修所及び室堂周辺  
参加者 12 名、講師スタッフ等 13 名 合計 25 名参加
- ② 上級登山リスクマネジメント指導者研修会  
2020 年 2 月 22 日 (土) ~23 日 (日)、国立オリンピック記念青少年総合センター  
新型コロナウイルスによる影響も多少あったが、23 名参加、講師スタッフ 8 名参加
- ③ 安全登山サテライトセミナー  
東京会場: 12 月 14 日 (土) ~15 日 (日) 国立オリンピック記念青少年総合センター  
申込者数: 192 名 参加者数: 168 名 講師: 5 名 スタッフ: 7 名  
滋賀会場: 7 月 13 日 (土) ~14 日 (日) 大津市民会館  
申込者数: 175 名 参加者数: 148 名 講師: 5 名 スタッフ: 7 名  
福岡会場: 11 月 16 日 (土) ~17 日 (日) 九州大学伊都キャンパス椎木講堂  
申込者数: 193 名 参加者数: 161 名 講師: 6 名 スタッフ: 5 名



④ 積雪期登山基礎講習会

2020年2月7日(金)～9日(日)、国立登山研修所及び周辺山城

参加者34名、講師スタッフ等20名 参加 合計34名参加

ウ) 第58回全日本登山大会の開催

9月28日(土)～30日(月) 岐阜県 高山市、下呂市

乗鞍岳、西穂高岳独標、御嶽山、福地山、五色ヶ原ほか

参加者 一般参加者163名

遭対委員会

ア) 山岳レスキュー講習会

①西部地区(富山県・国立登山研修所) 9月6日(金)～8日(日)

縦走ハイキング15名、クラスA5名、クラスB10名、クラスC8名、計38名参加  
スタッフ・オブザーバー25名参加

②東部地区(群馬県・土合山の家) 1月24日(金)～26日(日)

クラス116名、クラス216名、クラス312名、合計44名参加  
スタッフ・オブザーバー17名参加

イ) 研修及び研究会

①遭対常任研修会 8月24(土)～25日(日)

長野県山岳総合センター 参加者16名 レスキュー講習会 指導法の確認

②遭難対策研修会兼全国遭対委員長会議 6月29日(土)～30日(日)

現在の討議時間では意見の出し合い、討議から纏めまでは行えない状況にある。

次回は1日目11時開始とし、時間を確保したい。前年度課題としていた全国遭難対策

委員長名簿の整備は、各都道府県委員長の協力によりメーリングリストが整った。

遭難対策委員会の年間行事等の情報、常任委員会議事録のメール配信を開始した。

ウ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

エ) 令和元年度全国山岳遭難対策協議会の共催(スポーツ庁他)

7月5日(金) 文部科学省講堂

八木原会長、丸副会長、尾形専務理事、町田理事参加 参加者約250名

オ) 山岳保険加入者の事故調査(報告書作成/HP掲載)

第16回山岳遭難事故調査報告書をHPに掲載

カ) 遭難事故の調査研究

- ・遭難事故に関する調査研究(委託事業)  
警察庁発表の2018年山岳遭難概況の解析

- ・遭難事故の科学的分析

キ) 遭難事故科学的研究支援

- ・IMSAR研究助成支援(継続)

(4) 登山指導者育成事業(指導委員会)

ア) 指導員研修会

① 氷雪技術研修会(A級主任検定員・上級指導員養成講習会)

4月27日(土)～28日(日) 富士山

研修 4 名、A 級主任検定 4 名、コーチ 2 養成講習 2 名、講師 3 名、  
山梨県スタッフ 4 名の合計 17 名参加

② 全国指導委員長会議

6 月 1 日 (土) ~ 2 日 (日) 東京海員会館

夏山リーダー関連、講習方法、ポスター・チラシ配布等を中心に討議した。

③ 登攀技術研修会 (A 級主任検定員・山岳コーチ 2(上級)指導員養成講習会)

10 月 26 日 (土) ~ 27 日 (日) (一社)大阪府山岳連盟 場所:神戸セミナーハウス

参加者 研修 6 名、A 級主任検定 3 名、B 級主任検定 3 名、コーチ 2 養成講習 5 名

講師 4 名、大阪府スタッフ 5 名、合計 26 名

④ 氷雪技術研修会 (A 級主任検定員・山岳コーチ 2(上級)指導員養成講習会)

2020 年 2 月 15 日 (土) ~ 16 日 (日) 大山

参加者 研修 10 名、A 級主任検定 2 名、上級指導員養成講習 4 名、講師 3 名

鳥取県スタッフ 3 名の合計 22 名

⑤ SC 主任検定員養成講習会

近畿地区 11 月 9 日 (土) 神戸登山研修所 3 名合格

東京地区 12 月 14 日 (土) 昭島スポーツセンター 5 名合格

イ) 夏山リーダー養成

① 夏山リーダー検定会 期日 4 月 20 日 (土) ~ 21 日 (日)

千葉県山岳連盟 5 名受検 合格

② 夏山リーダー講習会 期日: 8 月 15 日 (木) ~ 18 日 (日)

宿泊: 国立那須甲子青少年自然の家 受講生 11 名、講師 6 名、オブザーバー 2 名

③ 夏山リーダー講師養成講習会

主管: 京都府山岳連盟 期日: 2019 年 11 月 17 日 (日)

受講生 43 名 講師 2 名

④ 夏山リーダー講師養成講習会

12 月 7 日 北陸・福井 参加者 5 名、講師 1 名

ウ) UIAA 認定のための査察 (UIAA 担当者来日)

8 月 12 日 (月) ~ 21 日 (水) 那須

上記予定であったが、UIAA との見解に相違があり、次年度以降に受け入れることにした。

エ) 指導常任委員会 毎月第 1 月曜日

オ) 国立登山研修所事業への協力

(5) **アルピニスト育成 (国際・アルパインクライミング委員会)**

国際・アルパインクライミング委員会

ア) 国際・AC 委員全体会議兼第 58 回海外登山技術研究会

6 月 22 日 (土) ~ 23 日 (日) 目黒区東山大橋会館

常任委員、専門委員 10 名、岳連参加者 19 名、一般参加者 12 名

イ) 海外登山懇談会

11 月 14 日 (木) 国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者 委員を含み 14 名、講師 3 名

ウ) 支援事業

ウインター・クライマーズ・ミーティング (国内) の支援

2020 年 2 月 場所 北アルプス穴毛谷付近 10 名参加

エ) 海外登山奨励事業

本項(2) エ)の項参照。

## 2. スポーツクライミング事業

2019 年度は、下記の記録に表れているように多くの成果があった。8 月に開催された IFSC 世界選手権においては、2020 オリンピック出場選手が男女各 1 名ずつ内定された。それに続く選手も順調に伸びている。オリンピック出場枠は男女もう 1 名ずつあり、オリンピック予選大会や他の大会に熱い視線が注がれている。選手選考については総括に記した通りである。公認大会、ジャパンツアーも次代を担う選手で溢れている。SC 部の事業について SC 医科学委員会や AD 委員会のサポートが欠かせない。貢献度は大なるものがある。代表を目指す選手に限るわけではないが、今後は選手教育、そして指導者教育も重要な柱になって来る。JMCSA メンバー(Club JMCSA ITADAKI)についてもスポーツクライミング普及の大きな力となっている。会員数 545 名 (CLIMB 会員 347 名、ITADAKI 会員 198 名)

### (1) 競技会運営事業(競技委員会)

公認大会・予選会実施の推進

#### ア) 競技会・研修会の開催

##### ① FISE WORLD SERIES Hiroshima 2019 (エクストリームスポーツ国際フェスティバル)

4 月 19 日 (金) ~ 21 日 (日) 広島市・旧市民球場跡地

BWC シーズン最中ということで主力選手の参加はなかった。

##### ② スポーツクライミング・ボルダリングユース日本選手権鳥取大会 2019

5 月 18 日 (土) ~ 19 日 (日) 鳥取県倉吉体育文化会館

下記、名前の左から順に 1 位、2 位、3 位

男子ジュニア：小西桂、土肥圭太、今泉結太

女子ジュニア：中村真央、黒岡水夢、張替夢乃

男子ユース A：川又玲瑛、竹田創、百合草碧皇

女子ユース A：菊地咲希、松藤藍夢、平野夏海

男子ユース B：関口準太、吉田智音、西浦暖礎

女子ユース B：中川瑠、小池はな、小倉紗奈

男子ユース C：通谷律、安楽宙斗、藏敷慎人

女子ユース C：抜井美緒、菊川花恋、鈴木結菜

##### ③ スポーツクライミング・第 2 回コンバインド ジャパンカップ

5 月 25 日 (土) ~ 26 日 愛媛県西条市石鎚クライミングパーク SAIJO

男子：1 位 檜崎智亜、2 位 原田海、3 位 藤井快

女子：1 位 野中生萌、2 位 野口啓代、3 位 森秋彩

##### ④ IFSC 世界選手権 2019 (強化事業の項参照)

8月10日(土)～22日(木) エスフォルタアリーナ八王子

⑤オリンピックテストイベント

8月30日(金)～9月1日(日) ⇒ 2020年3月6日(金)～7日(土)に変更  
青海アーバンスポーツパーク

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、選手不参加で実施。

⑥ スポーツクライミング・第22回 JOC ジュニアオリンピックカップ

9月14日(土)～16日(日) 富山県南砺市桜ヶ池クライミングセンター

男子111名(ジュニア9、ユースA34、B33、C35)

女子93名(ジュニア11、ユースA22、B34、C26)

下記、名前の左から順に1位、2位、3位

男子ジュニア：今泉結太、山口龍磨、轟本直生

女子ジュニア：小島果琳、西田朱李、黒岡水夢

男子ユースA：百合草碧皇、西田秀聖、前田健太郎

女子ユースA：栗田湖有、柿崎未羽、久米乃ノ華

男子ユースB：吉田智音、村下善乙、三根生仁慈

女子ユースB：美谷島ももか、柏綾音、石井秀佳

男子ユースC：通谷律、安楽宙斗、内木智

女子ユースC：菊川花恋、抜井美緒、小田穂香

⑦ IFSC リードワールドカップ印西大会 2019

10月26日(土)～27日(日) 千葉県印西市・松山下公園総合体育館

25国と地域から男子54名、女子52名参加

男子：1位清水裕登、4位波田悠貴

女子：4位野口啓代、5位野中生芽、6位谷井菜月、8位田島あいか

⑧ 第10回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会

12月21日(土)～22日(日) 埼玉県加須市民体育館

42都道府県から男子109名、女子103名、団体：男子31校、女子23校

下記、名前の左から順に1位、2位、3位

<個人>

男子：西田秀聖/奈良・天理高校、村下善乙/千葉・柏南 抜井亮瑛/大阪・金光藤蔭

女子：柿崎未羽/東京・明法、栗田湖有/新潟・東京学館新潟、阿部桃子/神奈川・相模

女子大高校

<団体>

男子：滋賀県立草津、千葉県立幕張総合、岐阜聖徳学園

女子：佐賀県立多久、千葉・船橋市立船橋、岐阜聖徳学園

⑨ スポーツクライミング・第15回ボルダリングジャパンカップ

2020年2月8日(土)～9日(日) 駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場

男子60名、女子47名参加

下記、名前の左から順に1位、2位、3位

男子：原田海、檜崎智亜、井上祐二

女子：伊藤ふたば、野口啓代、野中生萌

⑩スポーツクライミング・第2回スピードジャパンカップ

2020年2月22日(土)～23日(日) 昭島市・モリパークアウトドアビレッジ

男子24名、女子26名参加

下記、名前の左から順に1位、2位、3位

男子：土肥圭太 檜崎智亜、竹田創

女子：伊藤ふたば、倉奈々子、野中生萌

⑪スポーツクライミング・第33回 リードジャパンカップ 2020

2020年3月7日(土)～8日(日) 埼玉県加須市民体育館

新型コロナウイルスによる影響を受けて次年度に延期。

⑫スポーツクライミング・リードユース日本選手権印西大会 2020

2020年3月21日(土)～23日(月) 千葉県印西市・松山下公園総合体育館

新型コロナウイルスによる影響を受けて次年度に延期。

(2) 国体スポーツクライミング競技の主管(国体委員会)

五輪競技種目化に伴い、IFルールに準拠した国体スポーツクライミング競技の検討。

国体スポーツクライミング競技競技規定の一部改正を行った。(規程名称は競技がダブルります。)

①ブロック研修会の開催 11月～3月 全国9ブロック

②4月20日(土)～21日(日) 第74回茨城国体第1回基準会議、茨城県鉾田市

③6月7日(金)～9日(日) 第74回茨城国体第2回基準会議、茨城県鉾田市

④6月8日(土)～9日(日) 第74回茨城国体リハーサル大会(第6回日本学生スポーツクライミング(L/B)対抗選手権大会) 茨城県鉾田町総合公園

男子：1位・立教大学、2位・日本大学 3位・日本体育大学

女子：1位・酪農学園大学 2位・日本体育大学 3位・明治大学

⑤9月8日(日) 組合せ抽選会 Japan Sport Olympic Square

尾形専務理事、西原国体委員長参加

⑥各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催(委託実施)

⑦10月4日(金)～6日(日) 第74回茨城国体スポーツクライミング競技、茨城県鉾田市総合公園 八木原会長、平山副会長、水村理事、西原国対委員長他参加

⑧第74回茨城国体以降の開催県への指導

(3) 強化事業(強化委員会)

ア) オリンピック強化選手の選考

イ) 日本代表選手選考・派遣

①代表(S、A、B)選手の選考

ウ) 代表選手の派遣

①IFSCクライミングWC

4月～11月 世界各地

②IFSC世界選手権八王子大会 2019

8月10日(土)～22日(木) エスフォルタアリーナ八王子

39国と地域、B：男子104、女子89、L：男子99、女子92、S：男子99、女子83、C：男子20、女子20、延べ参加選手：男子322名、女子284名  
オリンピック内定選手：男子・檜崎智亜、女子・野口啓代  
日本人選手の主な結果は以下のとおりである。

男子リード：檜崎智亜4位、原田海7位

女子リード：森秋彩3位、野口啓代5位

男子ボルダリング：檜崎智亜1位、藤井快4位、土肥圭太5位

女子ボルダリング：野口啓代2位、野中生萌5位、倉菜々子6位

男子スピード：檜崎智亜22位、女子スピード：野中生萌25位

男子複合：檜崎智亜1位、原田海4位、檜崎明智5位、藤井快6位

女子複合：野口啓代2位、野中生萌5位、森秋彩6位

### ③IFSC 世界ユース選手権

8月22日(木)～8月31日(土) イタリア・アルコ

男子ジュニアリード：1位田中修太、2位天笠颯太、5位小西桂

男子ジュニアボルダリング：1位天笠颯太

女子ジュニアリード：7位樋口結花

男子ユースA リード：1位西田秀聖

男子ユースA ボルダリング：1位百合草碧皇

女子ユースA ボルダリング：1位平野夏樹、3位菊地咲希、5位工藤花

男子ユースB リード：1位関口準太、2位上村悠樹、3位吉田智音

男子ユースB ボルダリング：2位関口準太

女子ユースB リード：2位小池はな、5位中川瑠

女子ユースB ボルダリング：2位中川瑠、3位小池はな

### ④ ANOC ビーチゲームズ

10月12日(土)～16日(水) ドーハ

### ⑤オリンピック予選大会

11月28日(木)～12月1日(日) フランス・トゥールーズ

男子複合：3位檜崎明智

女子複合：1位伊藤ふたば、5位森秋彩

### ⑥アジア選手権

11月6日(水)～10日(火) インドネシア・ボゴール

男子複合：1位藤井快、2位緒方良行、3位今泉結太

男子リード：1位藤井快、2位田中修太、3位本間大晴

男子ボルダリング：1位小西桂、2位藤井快、3位川又玲瑛

女子複合：2位倉菜々子

女子リード：2位倉菜々子

女子ボルダリング：2位倉菜々子

### ⑦アジアユース選手権

12月12日(木)～15日(日) インド・バンガロール

ボルダリング、リード部門の全カテゴリーで優勝。金 12 個、銀 11 個、銅 8 個獲得  
11 月 14 日（木）～17 日（日） 中国・重慶  
コンバインド部門で金 5 個、銀 4 個、銅 4 個獲得

エ) 代表選手強化合宿（海外・国内）

国内（シニア 2 回、ユース 1 回）、海外（シニア 2 回、ユース 1 回）実施

オ) ユース選手・指導者講習会の開催

カ) ジュニア・クライマー実態調査に基づく選手、指導者、保護者への  
スポーツ障害予防啓発(医科学支援) BMI の指導実施

キ) 複合種目(リード、ボルダリング、スピード)への取り組み

ク) 選手の心身面の強化に対する取り組み

ケ) 競技者育成プログラムの作成と関連事業の検討

#### (4) 審判・ルートセッター事業

各種競技会・国体スポーツクライミング競技への支援協力。ルートセッター派遣、ブロック別研修会講師派遣

ア) 審判・セッター会議の開催（2 月、3 月）

イ) 全国ルートセッター研修会

・第 1 回：9 月 17 日(火)～19 日(木)の後 富山県南砺市桜ヶ池 cc

参加者：8 名（内 認定研修 1 名）、合格者 7 名（内 C 級 4 名）

・第 2 回：12 月 23 日（月）～25 日（水）埼玉県加須市民体育館

参加者：4 名（内 認定研修 1 名）、合格者 3 名（内 C 級 1 名）

※ 認定研修参加者は、公認資格取得済み

ウ) 国際ルートセッター資格取得支援

#### (5) ドーピング防止事業(アンチドーピング委員会)

ア) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など

① ドーピング検査実施（日本スポーツフェアネス機構、JADA に委託）

② ドーピング防止講習会開催

③ TUE（治療目的使用に関わる除外措置）申請の支援

④ ADAMS（アンチ・ドーピング管理システム）登録選手への管理支援

#### (6) 倫理研修会事業(ガバナンス委員会、アンチ・ドーピング委員会)

AD・倫理研修会の開催（随時）合計で 500 名を超える参加があった。

東京、京都は年 2 回、他は、仙台、福岡、愛知、新潟、北海道、広島で月 1 回開催した。

最後の東京は新型コロナウイルスの影響で次年度に延期になった。

#### (7) ユニバーシアード関連(全日本大学スポーツクライミング協会)

JOC 主催委員会等出席

### 3. 登山関連・競技会運営事業

#### (1) 山岳スキー、スカイラン/トレラン普及・振興、

① 第 13 回山岳スキー日本選手権大会（山岳スキー委員会）

2020 アジア選手権代表選考会

4 月 6 日(土)～7 日(日) 小谷村柵池高原スキー場

実エントリー71名(出走68名)、バーチャル45名(41名)、インディビジュアル68名(65名)

- ② ISMF(国際山岳スキー連盟)アジア選手権派遣支援  
新型コロナウイルスの感染拡大により中国でのアジア選手権は中止。
- ③ ISMFの新会長 Thomas Kaer 氏来日 白馬視察(2/24~27)
- ④ (一財)日本トレイルランニング協会、日本トレイルランナーズ協会、  
(一社)日本スカイランニング協会等との連携強化とトレラン事業の調査・協力

#### 4. 登山研究調査事業

##### (1) 国際交流事業(国際委員会)

###### ア) 派遣他

- ① BMC International Climbers Meet への派遣(夏)  
5月12日(日)~19日(日) 英国・ノース・ウェールズ  
男子、女子各1名参加(登山月報606号に報告済)
- ② キルギスマウンテンスピリッド  
7月26日~8月15日 レーニン峰 男子1名派遣。
- ③ カザフスタン インターナショナルロッククライミングフェスティバル派遣  
8月28日~9月5日(移動日含む) 開催地 Tuyuk Su area (トゥユク・ス)  
男子1名派遣。
- ④ UIAA アイスクライミング選手権派遣支援

##### (2) 医・科学支援事業(登山部医科学委員会)

ア) JSP0 公認スポーツドクター及びアスレチックトレーナーの養成支援(受講希望者の推薦及びスポーツドクター、アスレチックトレーナー代表者協議会への出席)

###### イ) UIAA MedCom

- ① UIAA MedCom Meeting への出席 11月7日~8日 イタリア  
上小牧憲寛 登山医科学常任委員

###### ウ) JMCSA が支援している医科学的諸事業

- ① 国際認定山岳医研修会
- ② 日本登山医学会認定山岳医研修会
- ③ NPO 富士山測候所を活用する会
- ④ JSMM 登山者検診ネットワーク
- ⑤ 日本登山医学会ファーストエイド講習会

#### 5. 自然保護研究調査事業

##### (1) 山岳環境保全事業(自然保護委員会)

###### ア) 研修及び研究会

- ① 平成31年度自然保護委員総会(第43回山岳自然の集い)  
2019年11月9日(土)~10日(日) 宮城県金華山周辺  
22都道府県から96名参加



## ② 国際自然保護研修会

5月20日(月)～24日 韓国濟州島

国際山岳自然環境研修会(韓国に於ける山岳自然保護の交流会と巡検登山)に自然保護委員など11名が参加し、韓国山岳会の案内で、韓国に於ける二つの国立公園、漢拏山国立公園と北韓山国立公園を巡検してきた。濟州島で2泊にて漢拏山登山を、その後ソウルへ渡り、韓国山岳会訪問、北韓山国立公園(白雲台)登山を行った。

## ③第8回自然保護指導員研修会

2020年1月25日(土) 国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者:71名

### イ) 自然保護の啓発

#### ①自然保護指導員制度の推進

#### ②全国環境月間(6月)の実施

#### ③環境省・自然公園指導員制度への協力

- ・自然公園指導員の推薦

#### ④山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進

- ・山岳団体自然環境連絡会への参加
- ・山の野生鳥獣目撃レポート・プロジェクトの推進
- ・各種環境保護事業の後援と派遣

#### ⑤日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加と協力

## 6. 共益事業

### (1) 広報等

ア)『登山月報』毎月15日定期発行 第601号(4月号)～第612号(3月号)

イ)HPのタイムリーな更新作成 (<http://www.jma-sangaku.or.jp>)

#### ①英文コーナーの新設

ほぼ構築は終了し、間もなく公表の運びとなった。

### (2) 会議等

ア)総会 6/16(日)

イ)理事会 第1回5/26(日)、第2回6/16(日)(総会終了後)、第3回7/11(木)、第4回8/1(木)、臨時8/9(金)、第5回9/12(木)、第6回10/10(木)、第7回11/14(木)、第8回12/12(木)、第9回2020年1/9(木)、臨時2020年1/21(火)、第10回2020年2/13(木)、第11回2020年3/5(木)、電磁2020年3月9日(月)

ウ)全国理事長会議 2020年2/16(日)

エ)全国参与会 9/28(土) 岐阜県高山市(第58回全日本登山大会開催時)

オ)顧問・参与会 2020年1/11(土) 東京・アルカディア市ヶ谷(新春懇談会開催時)

カ)常務理事会 第3回理事会以降、毎月理事会前に開催

キ)委員長会議 11/14(木)

ク)各委員会常任委員会 毎月1回以上開催

ケ)事務局会議(随時)

- コ) 新春懇談会 2020年1/11(土) アルカディア市ヶ谷 180名参加
- サ) 山岳4団体懇談会 7/1(月)
  - 幹事: 日本勤労者山岳連盟 場所: 神楽坂
  - (公社) 日本山岳会、(公社) 日本山岳ガイド協会、日本勤労者山岳連盟、JMCSAの各団体
  - 八木原会長、亀山、平山、丸各副会長、尾形専務理事、小野寺常務理事
- シ) (一財) 全国山の日協議会 (随時)
  - ・ 第4回「山の日」記念全国大会 8/10(土)～11(日) 山梨県甲府市
  - 神崎顧問、丸副会長、尾形専務理事出席
  - ・ 第11回運営委員会(9/19)、理事会(11/26)に尾形専務理事出席
- ス) 国際会議
  - ① 国際山岳連盟(UIAA) 理事会 5/2(木)～7(火) マルタ
  - 八木原会長、小野寺常務理事出席
  - ② 国際山岳連盟(UIAA) 総会 10/30(水)～5(火) キプロス
  - 丸副会長 小野寺常務理事出席
  - ③ アジア山岳連盟(UAAA) 理事会 6/1(土)～5(水) 台北
  - 八木原会長、小野寺常務理事出席
  - ④ アジア山岳連盟(UAAA) 総会 10/11日(金)～15日(火) キルギス
  - 八木原会長、丸副会長出席
  - ⑤ 国際山岳連盟登山部会 年度内開催無し
  - ⑥ 国際スポーツクライミング連盟(IFSC) 総会 キプロス 2020年3月から11月に延期
  - ⑦ 国際山岳スキー連盟総会 9/27日(土)～29日(月) トルコ・アンタルシャ
  - 笹生委員長、松澤委員出席

### (3) 総務等

- ア) 令和元年度(2019年度)役員・会員名簿及び賛助会員名簿の作成・発行
- イ) 議事録の作成・管理
- ウ) 新役員選考規程の元、役員改選を行い理事23名、監事2名を選任した。
- エ) 新役員及び事務所移転に伴う登記を行った。
- オ) 山岳保険のPR(山岳雑誌広告、登山月報広告、Webサイト他)
- カ) 組織充実強化のため組織管理運営規程を一部改定して対応した。

### (4) 財政等

- ア) 財源の確保
  - ① ロイヤリティー収入源の具体策を検討(具体策な検討に至らなかった。)
- イ) 外部資金の導入
  - ① グローバル・パートナーの獲得(新規獲得無し。既存の2社のみ)
  - ② 競技関係の協賛企業の獲得(ジャパンツアーのスポンサーを新規獲得)
  - ③ 創立60周年記念事業募金活動
  - 累計総額 416口、208万円
- ウ) 財政再建諮問委員会の立ち上げ

IFSC 世界選手権の大幅赤字に対処するため、財政再建諮問委員会を立ち上げて、中間検証報告を行った。

エ) 理事会において毎月の収支決算の報告を行った。

オ) 国民スポーツ登山振興基金の管理（1000 万円の取り崩しを理事会で承認した。）

カ) 山岳共済会（事務センター）の運営管理・山岳共済会会計

キ) 監事監査 期末監査：5/15（水）～16（木）、中間監査：10月30日（水）

ク) 中間決算と補正予算について 11月14日（木）中間報告・中間決算承認理事会

ケ) 2020 年度予算案の作成（2020 年 3 月）総額 427,368 千円の収支均等予算を編成

以上